

台湾・台中市政府水利局との都市河川再生に 関わる技術交流報告

技術参与／日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)代表理事 土屋 信行
水循環・水環境グループ研究員／日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)事務局 和田 彰

1. はじめに

当研究所が事務局を務める日本河川・流域再生ネットワーク（以下、JRRNと呼ぶ）では、2008年より計7回、台湾の行政機関や大学、NGOの来日視察団を受入れ、河川再生に関わる技術交流や国内行政機関との交流支援を担っています。

2019年12月上旬に台湾中部に位置する台中市を訪れ、河川再生シンポジウム参加及び河川再生事業現場の視察を通じて技術交流を行いました。

2. 河川再生シンポジウム（大台中河川復育論壇）

台中市政府水利局及び逢甲大学水利発展センター共催によるシンポジウムが開催され、都市河川再生の歩みや事例、川づくりの市民連携や啓発を主テーマに双方の経験を共有しました。

台中市内の河川管理を担う台中市水利局では、2014年より市内6河川（緑川・柳川・筏子溪・黎明溝・早溪排水・山脚大排）を対象に、洪水防御・水質改善・親水空間創出を3本柱とする河川再生事業に着手しています。計画立案から事業実施段階までの地域住民の参画、またグリーンインフラに象徴される緑の機能を活かした環境配慮設計など、試行錯誤を重ねながら新たな川づくりに挑戦しています。



河川再生シンポジウムでの記念撮影

3. 台中市内の河川再生現場での技術交流

台中市のランドマークとなるような水辺の観光スポットとして整備された筏子溪の親水広場を案内頂いた後は、10年前に埋め立て計画が持ち上がりながら、地域住民の保全要望を受け官民協働で始まった黎明溝の川づくりを視察しました。環境整備や環境教育を担う市民団体の方々より、黎明溝でのこれまでの活動の歩みや自然環境の変化等をご説明頂き、市民と行政が連携した川づくりの経験を主テーマに交流しました。



黎明溝で活動する市民団体との交流

続いては、かつて治水目的のみで整備された都市河川の親水性向上や自然環境再生の事例として、事業実施中の柳川、早溪排水、緑川を視察し、各現場技術者より事業概要を紹介頂きました。



柳川での環境配慮設計に関わる現場説明

5. おわりに

本技術交流において各現場を丁寧に案内頂いた台中市政府水利局及び市民団体の皆さま、またシンポジウム運営を含む技術交流全体を支援頂いた逢甲大学の皆さまに厚く御礼申し上げます。引き続き、JRRNとして台中市と日本の河川分野の橋渡しを努めてまいります。